

## 令和6年度及び令和7年度大学入学者選抜について（予告）（第3報）

標記のことについて、これまでに公表した予告（令和4年11月10日公表、令和4年12月21日公表）の内容を下記のとおり変更します。

なお、これまでの予告内容を取りまとめた詳細資料は、別紙1（令和6年度入学者選抜の概要）又は別紙2（令和7年度入学者選抜の概要）を確認してください。

また、予告内容については、今後修正となる場合がありますので、入試実施年度に公表される入学者選抜要項及び学生募集要項で必ず確認してください。

### 記

#### 1. 総合型選抜の一般枠設置に係る変更の趣旨等

本学では、ダイバーシティ&インクルージョンのさらなる推進を目指し令和4年11月10日に女子枠の導入を発表したところですが、より多様な入学者を受け入れることを目的に、さらなる検討を行いました。理学院ではこれまで学校推薦型選抜により、理学における高い能力を示す活動実績を持つ学生を受け入れてきました。今回、この学校推薦型入試の趣旨は変えずにより多様な人材を受け入れることを目的に、同様の活動実績を持つ学生を推薦の必要なく広く一般から募集することとしました。そのため令和6年度入試を最後に学校推薦型選抜を廃止し、これに替え令和7年度入試から総合型選抜に8人の一般枠を設けます。

工学院は従来 of 総合型選抜では、機械系、システム制御系、電気電子系、情報通信系、経営工学系の学問分野に強い興味を抱き、柔軟な発想力と、その発想を他者と共有するための説明力及び他者の発想を理解できる能力に秀でた素質をもつ学生を受け入れてきました。工学院では今回、この従来 of 総合型選抜を廃止し、国際経験を含む多様な経験により工学分野に強い興味を持つ傑出した学生を広く受け入れることに主眼を置き、令和7年度入試から総合型選抜に17人の一般枠を設けます。

#### 2. 総合型選抜の一般枠設置に係る変更の内容

##### ① 理学院について

- ・学校推薦型選抜（募集人員8人）を令和6年度入試を最後に廃止します。
- ・令和7年度入試から、総合型選抜に一般枠（募集人員8人）を新設します。
- ・令和7年度入試から設置する総合型選抜の女子枠（募集人員15人）は、これまでに公表した予告どおりとします。なお、一般枠と女子枠の併願は、できません。

##### ② 工学院について

- ・令和7年度入試から、総合型選抜の一般枠（募集人員17人）を新設します。
- ・令和7年度入試から設置する総合型選抜の女子枠（募集人員70人）は、これまでに公表した予告どおりとします。なお、一般枠と女子枠の併願は、できません。

#### 3. その他の変更

- ・一般選抜（前期日程）の選抜方法では、これまで受験者は第1志望から第3志望まで3つの学院を登録できることとしていましたが、令和6年度入試から第1志望と第2志望の2つの学院の登録に変更します。
- ・生命理工学院では、令和7年度入試の総合型選抜 第2段階選抜の共通テストの配点を変更します。  
変更前：数学20点、理科20点、外国語10点、合計50点  
変更後：数学20点、理科20点、外国語10点、情報10点、合計60点

## 令和6年度入学者選抜の概要

## 1. 募集人員

(1) 学院, 学院を構成する系及び募集人員

学院	系 <sup>※1</sup>	募集人員
理学院	数学系	151 人
	物理学系	
	化学系	
	地球惑星科学系	
工学院	機械系	348 人
	システム制御系	
	電気電子系	
	情報通信系	
	経営工学系	
物質理工学院	材料系	178 人
	応用化学系	
情報理工学院	数理・計算科学系	92 人
	情報工学系	
生命理工学院	生命理工学系	150 人
環境・社会理工学院	建築学系	109 人
	土木・環境工学系	
	融合理工学系	
全学合計		1028 人

※1：「系」欄は2年目以降で所属可能な系を示す。

(2) 選抜ごとの募集人員

学院	募集人員 <sup>※1</sup>	一般選抜 (前期日程)	総合型選抜		学校推薦型選抜			
			一般枠 <sup>※2</sup>	女子枠 <sup>※3</sup>	一般枠 <sup>※2</sup>	女子枠 <sup>※3</sup>		
理学院	151 人	143 人	—	—	8 人	—		
工学院	348 人	314 人	34 人	—	—	—		
物質理工学院	178 人	138 人	20 人	20 人	—	—		
情報理工学院	92 人	72 人	6 人	14 人	—	—		
生命理工学院 <sup>※4</sup>	150 人	105 人	15 人	—	15 人	15 人		
環境・社会理工 学院 <sup>※5</sup>	109 人	80 人	A	8 人	A	3 人	—	—
			B	6 人	B	3 人	—	—
			C	6 人	C	3 人	—	—
合 計	1028 人	852 人	95 人	43 人	23 人	15 人		

※1：総合型選抜及び学校推薦型選抜の選考の結果、期待する水準に達した者が少なく、合格者数が当該選抜の募集人員に満たない場合は、その欠員を一般選抜（前期日程）の募集人員に加える。

※2：性別によらずに出願できる入試区分を「一般枠」と称する。

※3：女性のみが出願できる入試区分を「女子枠」と称する。女性の総合型選抜への志願者のうち物質理工学院、情報理工学院又は環境・社会理工学院への志願者は、一般枠と女子枠の併願が可能。また、女性志願者のうち生命理工學院の学校推薦型選抜への志願者は、一般枠と女子枠の併願が可能。

※4：総合型選抜と学校推薦型選抜をまたがった併願はできない。

※5：環境・社会理工學院の総合型選抜は系単位で募集する。Aは建築学系、Bは土木・環境工学系、Cは融合理工学系を表す。

## 2. 総合型選抜

### (1) 共通テストの取扱い

#### ①受験を要する共通テストの教科・科目

教科	科目
国語	「国語」
地理歴史、 公民	「世界史B」，「日本史B」，「地理B」，「現代社会」，「倫理，政治・経済」から1科目
数学	「数学Ⅰ・数学A」，「数学Ⅱ・数学B」の2科目
理科	「物理」，「化学」，「生物」，「地学」から2科目
外国語	「英語(リスニングを含む。)」，「ドイツ語」，「フランス語」，「中国語」，「韓国語」から1科目

#### ②第1段階選抜に利用する共通テストの各教科配点

	一般枠						女子枠					
	国語	地歴、 公民	数学	理科	外国語	合計	国語	地歴、 公民	数学	理科	外国語	合計
工学院	200	100	200	200	200 <sup>※1</sup>	900						
物質理工学院	200	100	200	200	200 <sup>※1</sup>	900						
情報理工学院	200	100	200	200	200 <sup>※1</sup>	900	一般枠と同じ					
生命理工学院	200	100	200	200	200 <sup>※1</sup>	900						
環境・社会 理工学院	200	100	200	200	200 <sup>※1</sup>	900						

※1：外国語科目として「英語」を選択した場合，200点の内訳は「リーディング」100点，「リスニング」100点とする。なお，「英語」を選択し，「リスニング」を免除された者は，「リーディング」の配点100点を200点に換算した得点とする。

※2：理科科目300点の内訳は選択した2科目のそれぞれを150点とする。

※3：外国語科目として「英語」を選択した場合，300点の内訳は「リーディング」150点，「リスニング」150点とします。なお，「英語」を選択し，「リスニング」を免除された者は，「リーディング」の配点150点を300点に換算した得点とする。

(2) 第1段階選抜

上記2. (1) で指定する共通テスト及び調査書等の出願書類を用いて、第1段階選抜を行う。

(3) 第2段階選抜

第1段階選抜に合格した者に対して、総合問題と、共通テストの得点(物質理工学院(一般枠・女子枠)、生命理工学院(一般枠))及び調査書等の提出書類を総合的に評価し、合格者を決定する。

一般枠と女子枠を併願する場合、各枠で判定した結果、両方合格であれば女子枠としての合格とする。

①第2段階選抜に利用する共通テストの配点

学院	一般枠			女子枠		
	総合問題	共通テスト	合計	総合問題	共通テスト	合計
工学院	100	—	100			
物質理工学院	90	90	180			
情報理工学院	100	—	100	100	—	100
生命理工学院	100	50	150			
環境・社会理工学院	100	—	100			

②第2段階選抜に利用する共通テストの各教科換算

学院	一般枠						女子枠					
	国語	地歴, 公民	数学	理科	外国語	合計	国語	地歴, 公民	数学	理科	外国語	合計
工学院	利用しない											
物質理工学院	20	10	20	20	20	90						
情報理工学院	利用しない						利用しない					
生命理工学院	0	0	20	20	10	50						
環境・社会理工学院	利用しない											

③第2段階選抜の試験内容

【一般枠】

学院	総合問題	内 容
工学院	筆記	数学や物理に関連した工学の基礎となる課題の設問により、論理的な思考力、解決力及び記述力を評価する。
	面接	工学分野に対する志望動機、与えられた物理や数学のテーマに関して論理的かつ明快に説明する能力を評価する。
物質理工学院	筆記	実施しない
	面接	科学的な知識及び考え方について試問し、考察力、表現力とともに物質についての科学技術を学ぶうえでの適性を評価する。

情報理工学院	筆記		実施しない
	面接		志願者の活動実績報告書 <sup>※2</sup> に関する発表や質疑応答等に基づき、情報に対する適性・素養・説明能力を評価する。
生命理工学院	筆記		生物に関する設問により、基礎学力、論理的な思考力及び記述力を評価する。
	面接		生命理工学分野に対する志望動機、学習意欲、論理的な思考力及び適性を評価する。
環境・社会理工学院 <sup>※1</sup>	A	造形課題	「数学Ⅲ」程度までの数学を応用した建築に関連する形態の造形、スケッチ及び説明文を解答させ、建築・都市空間の創造力を評価する。
	B	面接 (筆記を含む。)	国内外の社会や環境に関わる公共的な課題に対して問題の所在を整理し、解決できる素養並びにその表現の能力を評価する。
	C	面接	グローバル化する世界の環境及び社会的な問題について見解を論理的に形成し、それを表明し、審査員と質疑応答する面接を行う。これによって論理的な思考力、表現力、対話によって思考を深める力を評価する。

※1：環境・社会理工学院では、学士課程2年目の系所属の際にAを受験し合格した者は建築学系に、Bを受験し合格した者は土木・環境工学系に、Cを受験し合格した者は融合理工学系に、それぞれ所属する。

※2：情報理工学院のみ必要書類。志願者の活動や研究を志願者本人が記載する。

#### 【女子枠】

学院	総合問題	内 容	
工学院			
物質理工学院	筆記		実施しない
	面接		科学的な知識及び考え方について試問し、考察力、表現力とともに物質についての科学技術を学ぶうえでの適性を評価する。また、女性が活躍できる環境調和型社会に貢献するために本学物質理工学院で学びたいこと、及び自身の将来像をふまえた志望動機を論理的かつ明快に説明する能力を評価する。
情報理工学院	筆記		実施しない
	面接		志願者の活動実績報告書 <sup>※2</sup> に関する発表や質疑応答等に基づき、情報に対する適性・素養・説明能力を評価する。また、女性活躍社会に貢献するために本学情報理工学院で学びたいこと、及び自身の将来像をふまえた志望動機を論理的かつ明快に説明する能力を評価する。
生命理工学院			
環境・社会理工学院 <sup>※1</sup>	A	造形課題	「数学Ⅲ」程度までの数学を応用した建築に関連する形態の造形、スケッチ及び説明文を解答させ、建築・都市空間の創造力を評価する。また、活動実績報告書 <sup>※2</sup> の記載内容について評価する。
	B	面接 (筆記を含む。)	国内外の社会や環境に関わる公共的な課題に対して問題の所在を整理し、解決できる素養並びにその表現の能力を評価する。また、活動実績報告書 <sup>※2</sup> の記載内容について評価する。

	C	面接	グローバル化する世界の環境及び社会的な問題について見解を論理的に形成し、それを表明し、審査員と質疑応答する面接を行う。これによって論理的な思考力、表現力、対話によって思考を深める力を評価する。また、活動実績報告書 <sup>※2</sup> の記載内容について評価する。
--	---	----	---

※1：環境・社会理工学院では、学士課程2年目の系所属の際にAを受験し合格した者は建築学系に、Bを受験し合格した者は土木・環境工学系に、Cを受験し合格した者は融合理工学系に、それぞれ所属する。

※2：情報理工学院及び環境・社会理工学院の必要書類。  
 情報理工学院では、志願者の活動や研究を志願者本人が記載する。  
 環境・社会理工学院では、これまで授業や課外で取り組んだ活動及びそれらの活動を通して養われた能力・考え方のうち、環境や社会との関わりでアピールできるものを記載する。

### 3. 学校推薦型選抜

#### (1) 推薦人員・要件

##### ①推薦人員

学校長が同一の生徒を推薦できるのは、一つの学院に限る。

理学院に学校長が推薦できる人数は2人までとする。ただし、推薦要件③により推薦する場合はその人数に含まない。

生命理工学院に学校長が推薦できる人数は2人までとする。

生命理工学院に女子生徒を推薦する場合、「一般枠」、「女子枠」、「一般枠と女子枠」のいずれかを選択する。「一般枠と女子枠」を選択し、両方合格であれば女子枠としての合格とする。

##### ②推薦要件

学院	推薦要件
理学院	<p>理学における高い能力を示す以下の①，②，③のいずれかに該当し、学校長が責任をもって推薦でき、合格した場合には必ず入学することを確約できる者。</p> <p>①<u>正規の授業科目の一環として実施した課題研究</u>（理学及びそれに関連した内容に限る）で主導的な役割を果たし、優れた成果を挙げてそれをとりまとめて発表した者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究の例1. SSHの課題研究で〇〇〇に関する研究を行い、全国又は地域の研究交流会等で発表。</li> <li>・課題研究の例2. 卒業研究として〇〇〇に関する研究を行い、校内で発表。</li> <li>・課題研究の例3. 総合学習で行った研究成果を大学主催や地区の研究交流会等で発表。</li> </ul> <p>②<u>課外活動</u>において理学に関連した研究を行って優れた成果を挙げ（主導的な役割を果たしたことが必要）、それをとりまとめて校外の参加者を含む学校内外で発表したことを客観的に示す資料を提出できる者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課外活動の例1. 〇〇部のクラブ活動で2年間継続して研究を実施し、校外の参加者も含む学校内外で開催の研究会、研究交流会等で発表。</li> <li>・課外活動の例2. 夏休みに10日間継続して△△で野外調査を実施し、校外の参加者も含む学校内外での研究会、研究交流会等で発表。</li> </ul> <p>③数学、物理、化学、地学のいずれかの国際科学オリンピックに日本代表として出場した者、又は国際科学オリンピックの国内予選に相当する地区大会等で優秀な成績を収めた者</p> <p>上記の①及び②における「優れた成果」とは、学校内で現在及び過去の生徒との比較において優れていると学校長が認定できるものを指す。</p>

生命理工学院	以下の①，②，③の全てに該当し，学校長が責任をもって推薦でき，合格した場合には必ず入学することを確約できる者。 ①生命理工学院に対する明確な志望理由と学修の熱意を有し，学習成績・人物ともに特に優れる者 ②「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」，「数学B」の全てを履修，又は履修見込みの者 ③理科（生物，物理，化学）のうち2科目以上を履修している者
--------	--

(2) 共通テストの取扱い

①受験を要する共通テストの教科・科目

教科	科目
国語	「国語」
地理歴史， 公民	「世界史B」，「日本史B」，「地理B」，「現代社会」，「倫理，政治・経済」から1科目
数学	「数学Ⅰ・数学A」，「数学Ⅱ・数学B」の2科目
理科	「物理」，「化学」，「生物」，「地学」から2科目
外国語	「英語(リスニングを含む。)」，「ドイツ語」，「フランス語」，「中国語」，「韓国語」から1科目

②共通テストの各教科配点

	一般枠						女子枠					
	国語	地歴， 公民	数学	理科	外国語	合計	国語	地歴， 公民	数学	理科	外国語	合計
理学院	200	100	200	200	200 <sup>※1</sup>	900	/					
生命理工学院	200	100	200	200	200 <sup>※1</sup>	900						

※1：外国語科目として「英語」を選択した場合，200点の内訳は「リーディング」100点，「リスニング」100点とする。なお，「英語」を選択し，「リスニング」を免除された者は，「リーディング」の配点100点を200점에換算した得点とする。

(3) 選抜方法

学院	一般枠	女子枠
理学院	個別学力検査を免除し，共通テストの成績，推薦書，研究内容の要約並びに，調査書の内容のうち学業成績及び推薦理由に関する部分を総合的に評価し，合格者を決定する。	/
生命理工学院	個別学力検査を免除し，共通テストの成績，推薦書，調査書及び志望理由書の内容を総合的に評価し，合格者を決定する。	

※1：生命理工学院のみの必要書類。「女子枠」又は「一般枠と女子枠」に推薦する場合（「一般枠」の場合は提出不要。）「目指すキャリア」と入学後に身に付けたい学修内容を，志願者本人が記載すること。

#### 4. 一般選抜（前期日程）

##### （1）共通テストの取扱い

###### ①受験を要する共通テストの教科・科目

教科	科目
国語	「国語」
地理歴史、 公民	「世界史B」，「日本史B」，「地理B」，「現代社会」，「倫理，政治・経済」 から1科目
数学	「数学Ⅰ・数学A」，「数学Ⅱ・数学B」の2科目
理科	「物理」，「化学」，「生物」，「地学」から2科目
外国語	「英語(リスニングを含む。）」，「ドイツ語」，「フランス語」，「中国語」， 「韓国語」から1科目

###### ②第1段階選抜に利用する共通テストの各教科配点

教科	国語	地理歴史、 公民	数学	理科	外国語	合計
配点	200	100	200	200	200※ <sup>1</sup>	900

※1：外国語科目として「英語」を選択した場合、200点の内訳は「リーディング」100点、「リスニング」100点とする。なお、「英語」を選択し、「リスニング」を免除された者は、「リーディング」の配点100点を200点に換算した得点とする。

##### （2）第1段階選抜

上記4.（1）で指定する共通テストの成績をもとに2段階選抜を行う。

全学院の志願者計が募集人員計の4倍を超えた場合、本学が指定する共通テストの5教科7科目の成績（得点合計）により第1段階選抜を行うことがある。

なお、共通テストの成績については、第1段階選抜のみに使用する。

##### （3）第2段階選抜

第1段階選抜に合格した者に対して、個別学力検査を実施する。

###### ①個別学力検査の実施教科・科目

科目	科目内容	選択方法
数学	「数学Ⅰ」，「数学A」，「数学Ⅱ」，「数学B（数列，ベクトル）」， 「数学Ⅲ」を，その総合問題や応用問題を含めて、『数学』として出題する。	必須
物理	「物理基礎」，「物理」を合わせて『物理』として出題する。	必須
化学	「化学基礎」，「化学」を合わせて『化学』として出題する。	必須
英語	「コミュニケーション英語Ⅰ」，「コミュニケーション英語Ⅱ」， 「コミュニケーション英語Ⅲ」を合わせて『英語』として出題する。	必須



②個別学力検査の配点

科目	数 学	物 理	化 学	英 語	合 計
配 点	3 0 0	1 5 0	1 5 0	1 5 0	7 5 0

(4) 合否判定

個別学力検査の成績及び調査書の内容を総合して合格者を決定する。

志望学院は第2志望まで志望できる。第2志望を記入した場合は、第1志望で不合格となっても、第2志望で合格することがある。

個別学力検査の得点と同じ場合は、該当する学院の志望順位が高い者を上位とする。

## 令和7年度入学者選抜の概要

## 1. 募集人員

## (1) 学院，学院を構成する系及び募集人員

学院	系 <sup>※1</sup>	募集人員
理学院	数学系	151 人
	物理学系	
	化学系	
	地球惑星科学系	
工学院	機械系	348 人
	システム制御系	
	電気電子系	
	情報通信系	
	経営工学系	
物質理工学院	材料系	178 人
	応用化学系	
情報理工学院	数理・計算科学系	92 人
	情報工学系	
生命理工学院	生命理工学系	150 人
環境・社会理工学院	建築学系	109 人
	土木・環境工学系	
	融合理工学系	
全学合計		1028 人

※1：「系」欄は2年目以降で所属可能な系を示す。

## (2) 選抜ごとの募集人員

学院	募集人員 <sup>※1</sup>	一般選抜 (前期日程)	総合型選抜		学校推薦型選抜			
			一般枠 <sup>※2</sup>	女子枠 <sup>※3</sup>	一般枠 <sup>※2</sup>	女子枠 <sup>※3</sup>		
理学院 <sup>※4</sup>	151 人	128 人	8 人	15 人	—	—		
工学院	348 人	261 人	17 人	70 人	—	—		
物質理工学院	178 人	138 人	20 人	20 人	—	—		
情報理工学院	92 人	72 人	6 人	14 人	—	—		
生命理工学院 <sup>※5</sup>	150 人	105 人	15 人	—	15 人	15 人		
環境・社会理工 学院 <sup>※6</sup>	109 人	80 人	A	8 人	A	3 人	—	—
			B	6 人	B	3 人	—	—
			C	6 人	C	3 人	—	—
合 計	1028 人	784 人	86 人	128 人	15 人	15 人		

※1：総合型選抜及び学校推薦型選抜の選考の結果，期待する水準に達した者が少なく，合格者数が当該選抜の募集人員に満たない場合は，その欠員を一般選抜（前期日程）の募集人員に加える。

※2：性別によらずに出願できる入試区分を「一般枠」と称する。

※3：女性のみが出願できる入試区分を「女子枠」と称する。女性の総合型選抜の志願者のうち物質理工学院，情報理工学院又は環境・社会理工学院への志願者は，一般枠と女子枠の併願が可能。女性志願者のうち生命理工学院の学校推薦型選抜への志願者は，一般枠と女子枠の併願が可能。理学院又は工学院への志願者は，一般枠と女子枠の併願はできない。

※4：理学院の総合型選抜 一般枠では，学士課程2年目の系所属の際に，出願時に希望した系に所属することができる。なお，希望した系の選択は入学者選抜の合否判定に影響しない。

※5：総合型選抜と学校推薦型選抜をまたがった併願はできない。

※6：環境・社会理工学院の総合型選抜は系単位で募集する。Aは建築学系，Bは土木・環境工学系，Cは融合理工学系を表す。

## 2. 総合型選抜

### (1) 共通テストの取扱い

#### ①受験を要する共通テストの教科・科目

教科	科目
国語	「国語」
地理歴史、 公民	「歴史総合、日本史探究」，「歴史総合、世界史探究」，「地理総合、地理探究」， 「公共、倫理」，「公共、政治・経済」から1科目
数学	「数学Ⅰ・数学A」，「数学Ⅱ・数学B・数学C」の2科目
理科	「物理」，「化学」，「生物」，「地学」から2科目 <sup>※1</sup>
外国語	「英語(リスニングを含む。)」，「ドイツ語」，「フランス語」，「中国語」， 「韓国語」から1科目
情報	「情報Ⅰ」

※1：理学院の女子枠志願者は、理科2科目の選択は「物理」及び「化学」に限る。

工学院の一般枠志願者は、理科2科目の選択に「物理」を必ず含めること。

#### ②第1段階選抜に利用する共通テストの各教科配点

	一般枠							女子枠						
	国語	地歴、 公民	数学	理科	外国語	情報	合計	国語	地歴、 公民	数学	理科	外国語	情報	合計
理学院	200	100	200	200	200 <sup>※4</sup>	100	1000	200	100	200	200 <sup>※1</sup>	200 <sup>※4</sup>	100	1000
工学院	200	100	300	300 <sup>※2※3</sup>	300 <sup>※5</sup>	100	1300	200	100	200	200	200 <sup>※4</sup>	100	1000
物質理工 学院	200	100	200	200	200 <sup>※4</sup>	100	1000	200	100	200	300 <sup>※3</sup>	300 <sup>※5</sup>	100	1200
情報理工 学院	200	100	200	200	200 <sup>※4</sup>	100	1000	一般枠と同じ						
生命理工 学院	200	100	200	200	200 <sup>※4</sup>	100	1000	一般枠と同じ						
環境・社会 理工学院	200	100	200	200	200 <sup>※4</sup>	100	1000	一般枠と同じ						

※1：理学院の女子枠志願者は、理科2科目の選択は「物理」及び「化学」に限る。

※2：工学院の一般枠志願者は、理科2科目の選択に「物理」を必ず含めること。

※3：理科科目300点の内訳は選択した2科目のそれぞれを150点とする。

※4：外国語科目として「英語」を選択した場合、200点の内訳はリーディング100点、リスニング100点とする。なお、「英語」を選択し、リスニングを免除された者は、リーディングの配点100点を200点に換算した得点とする。

※5：外国語科目として「英語」を選択した場合、300点の内訳はリーディング150点、リスニング150点とする。なお、「英語」を選択し、リスニングを免除された者は、リーディングの配点150点を300点に換算した得点とする。

(2) 第1段階選抜

上記2. (1) で指定する共通テスト及び調査書等の出願書類を用いて、第1段階選抜を行う。

(3) 第2段階選抜

第1段階選抜に合格した者に対して、総合問題と、共通テストの得点（工学院（女子枠），物質理工学院（一般枠・女子枠），生命理工学院（一般枠）），及び調査書等の提出書類を総合的に評価し、合格者を決定する。

一般枠と女子枠を併願する場合、各枠で判定した結果、両方合格であれば女子枠としての合格とする。

①第2段階選抜に利用する共通テストの配点

学院	一般枠			女子枠		
	総合問題	共通テスト	合計	総合問題	共通テスト	合計
理学院	100	—	100	100 <sup>※1</sup>	— <sup>※1</sup>	100
工学院	100	—	100	100	100	200
物質理工学院	100	100	200	120	120	240
情報理工学院	100	—	100	100	—	100
生命理工学院	100	60	160			
環境・社会理工学院	100	—	100			

※1：総合問題の一部として共通テストの「物理」，「化学」の得点をそれぞれ30点として利用する。

②第2段階選抜に利用する共通テストの各教科換算

学院	一般枠							女子枠						
	国語	地歴, 公民	数学	理科	外国語	情報	合計	国語	地歴, 公民	数学	理科	外国語	情報	合計
理学院	利用しない							総合問題の一部として共通テストの「物理」，「化学」の得点をそれぞれ30点として利用する。						
工学院	利用しない							20	10	20	20	20	10	100
物質理工学院	20	10	20	20	20	10	100	20	10	20	30	30	10	120
情報理工学院	利用しない							利用しない						
生命理工学院	0	0	20	20	10	10	60							
環境・社会理工学院	利用しない													

③第2段階選抜の試験内容

【一般枠】

学院	総合問題		内 容
理学院 <sup>※1</sup>	筆記		実施しない
	面接		志願者の活動実績報告書 <sup>※2</sup> に関する質疑応答等に基づき、理学に対する適性・素養・説明能力を評価する。
工学院	筆記		実施しない
	面接		これまでの授業や自主的な学習、国際経験等を通して最も興味を持った理数系トピックを踏まえて工学院で学びたいことを含めた志望動機、並びに与えられた物理や数学（数学Ⅲを含む。）のテーマに関して論理的かつ明快に説明する能力を評価する。
物質理工学院	筆記		実施しない
	面接		科学的な知識及び考え方について試問し、考察力、表現力とともに物質についての科学技術を学ぶうえでの適性を評価する。
情報理工学院	筆記		実施しない
	面接		志願者の活動実績報告書 <sup>※2</sup> に関する発表や質疑応答等に基づき、情報に対する適性・素養・説明能力を評価する。
生命理工学院	筆記		生物に関する設問により、基礎学力、論理的な思考力及び記述力を評価する。
	面接		生命理工学分野に対する志望動機、学習意欲、論理的な思考力及び適性を評価する。
環境・社会理工学院 <sup>※3</sup>	A	造形課題	「数学Ⅲ」程度までの数学を応用した建築に関連する形態の造形、スケッチ及び説明文を解答させ、建築・都市空間の創造力を評価する。
	B	面接 (筆記を含む。)	国内外の社会や環境に関わる公共的な課題に対して問題の所在を整理し、解決できる素養並びにその表現の能力を評価する。
	C	面接	グローバル化する世界の環境及び社会的な問題について見解を論理的に形成し、それを表明し、審査員と質疑応答する面接を行う。これによって論理的な思考力、表現力、対話によって思考を深める力を評価する。

※1：理学院の一般枠では、学士課程2年目の系所属の際に、出願時に希望した系に所属することができる。なお、希望した系の選択は入学者選抜の可否判定に影響しない。

※2：理学院及び情報理工学院の必要書類。

理学院では、志願者の活動や研究を志願者本人が記載すること。活動の例：(1) 授業で実施した理学関連の課題研究で優れた成果を挙げ、発表した。(2) 理学関連の研究を行い、発表した。

(3) 国際科学オリンピックやその国内予選に出場し優秀な成績をおさめた。

情報理工学院では、志願者の活動や研究を志願者本人が記載すること。

※3：環境・社会理工学院では、学士課程2年目の系所属の際にAを受験し合格した者は建築学系に、Bを受験し合格した者は土木・環境工学系に、Cを受験し合格した者は融合理工学系に、それぞれ所属する。

【女子枠】

学院	総合問題		内 容
理学院	筆記	数学	「数学Ⅲ」を主な出題範囲とする筆記試験を行う。
		物理	共通テスト「物理」の結果で代用する。
		化学	共通テスト「化学」の結果で代用する。
	面接	理学分野に対する志望動機，学習意欲，論理的な思考力，及びそれらを表現する能力を評価する。	
工学院	筆記	実施しない	
	面接	女性活躍社会に貢献するために本学工学院で学びたいこと，及び自身の将来像をふまえた志望動機，並びに与えられた物理や数学（数学Ⅲを含む。）のテーマに関して論理的かつ明快到説明する能力を評価する。	
物質理工学院	筆記	実施しない	
	面接	科学的な知識及び考え方について試問し，考察力，表現力とともに物質についての科学技術を学ぶうえでの適性を評価する。また，女性が活躍できる環境調和型社会に貢献するために本学物質理工学院で学びたいこと，及び自身の将来像をふまえた志望動機を論理的かつ明快到説明する能力を評価する。	
情報理工学院	筆記	実施しない	
	面接	志願者の活動実績報告書 <sup>※2</sup> に関する発表や質疑応答等に基づき，情報に対する適性・素養・説明能力を評価する。また，女性活躍社会に貢献するために本学情報理工学院で学びたいこと，及び自身の将来像をふまえた志望動機を論理的かつ明快到説明する能力を評価する。	
生命理工学院			
環境・社会理工学院 <sup>※1</sup>	A	造形課題	「数学Ⅲ」程度までの数学を応用した建築に関連する形態の造形，スケッチ及び説明文を解答させ，建築・都市空間の創造力を評価する。また，活動実績報告書 <sup>※2</sup> の記載内容について評価する。
	B	面接 (筆記を含む。)	国内外の社会や環境に関わる公共的な課題に対して問題の所在を整理し，解決できる素養並びにその表現の能力を評価する。また，活動実績報告書 <sup>※2</sup> の記載内容について評価する。
	C	面接	グローバル化する世界の環境及び社会的な問題について見解を論理的に形成し，それを表明し，審査員と質疑応答する面接を行う。これによって論理的な思考力，表現力，対話によって思考を深める力を評価する。また，活動実績報告書 <sup>※2</sup> の記載内容について評価する。

※1：環境・社会理工学院では，学士課程2年目の系所属の際にAを受験し合格した者は建築学系に，Bを受験し合格した者は土木・環境工学系に，Cを受験し合格した者は融合理工学系に，それぞれ所属する。

※2：情報理工学院及び環境・社会理工学院の必要書類。

情報理工学院では，志願者の活動や研究を志願者本人が記載すること。

環境・社会理工学院では，これまで授業や課外で取り組んだ活動及びそれらの活動を通して養われた能力・考え方のうち，環境や社会とのかかわりでアピールできるものを記載すること。

### 3. 学校推薦型選抜

#### (1) 推薦人員・要件

##### ①推薦人員

学校長が推薦できる人数は2人までとする。

女子生徒を推薦する場合、「一般枠」、「女子枠」、「一般枠と女子枠」のいずれかを選択する。「一般枠と女子枠」を選択し、両方合格であれば女子枠としての合格とする。

##### ②推薦要件

学院	推薦要件
生命理工学院	以下の①, ②, ③の全てに該当し, 学校長が責任をもって推薦でき, 合格した場合には必ず入学することを確約できる者。 ①生命理工学院に対する明確な志望理由と学修の熱意を有し, 学習成績・人物ともに特に優れる者 ②「数学Ⅰ」, 「数学Ⅱ」, 「数学Ⅲ」, 「数学A」, 「数学B」, 「数学C」の全てを履修, 又は履修見込みの者 ③理科(生物, 物理, 化学)のうち2科目以上を履修している者

#### (2) 共通テストの取扱い

##### ①受験を要する共通テストの教科・科目

教科	科目
国語	「国語」
地理歴史, 公民	「歴史総合, 日本史探究」, 「歴史総合, 世界史探究」, 「地理総合, 地理探究」, 「公共, 倫理」, 「公共, 政治・経済」から1科目
数学	「数学Ⅰ・数学A」, 「数学Ⅱ・数学B・数学C」の2科目
理科	「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」から2科目
外国語	「英語(リスニングを含む。)」, 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」から1科目
情報	「情報Ⅰ」

##### ②共通テストの各教科配点

	一般枠							女子枠						
	国語	地歴, 公民	数学	理科	外国語	情報	合計	国語	地歴, 公民	数学	理科	外国語	情報	合計
生命理工学院	200	100	200	200	200 <sup>※1</sup>	100	1000	200	100	200	200	200 <sup>※1</sup>	100	1000

※1：外国語科目として「英語」を選択した場合、200点の内訳は「リーディング」100点、「リスニング」100点とする。なお、「英語」を選択し、「リスニング」を免除された者は、「リーディング」の配点100点を200点に換算した得点とする。

#### (3) 選抜方法

学院	一般枠	女子枠
生命理工学院	個別学力検査を免除し, 共通テストの成績, 推薦書, 調査書及び志望理由書の内容を総合的に評価し, 合格者を決定する。	個別学力検査を免除し, 共通テストの成績, 推薦書, 調査書, 志望理由書及び学修計画書 <sup>※1</sup> の内容を総合的に評価し, 合格者を決定する。

※1：「女子枠」又は「一般枠と女子枠」に推薦する場合（「一般枠」の場合は提出不要。）「目指すキャリア」と入学後に身に付けたい学修内容を, 志願者本人が記載すること。

#### 4. 一般選抜（前期日程）

##### （1）共通テストの取扱い

###### ①受験を要する共通テストの教科・科目

教科	科目
国語	「国語」
地理歴史、 公民	「歴史総合、日本史探究」、 「歴史総合、世界史探究」、 「地理総合、 地理探究」、 「公共、倫理」、 「公共、政治・経済」から1科目
数学	「数学Ⅰ・数学A」、 「数学Ⅱ・数学B・数学C」の2科目
理科	「物理」、 「化学」、 「生物」、 「地学」から2科目
外国語	「英語(リスニングを含む。）」、 「ドイツ語」、 「フランス語」、 「中国語」、 「韓国語」から1科目
情報	「情報Ⅰ」

###### ②第1段階選抜に利用する共通テストの各教科配点

教科	国語	地理歴史、 公民	数学	理科	外国語	情報	合計
配点	200	100	200	200	200※1	100	1000

※1：外国語科目として「英語」を選択した場合、200点の内訳は「リーディング」100点、  
「リスニング」100点とします。なお、「英語」を選択し、「リスニング」を免除された者は、  
「リーディング」の配点100点を200点に換算した得点とする。

##### （2）第1段階選抜

上記4.（1）で指定する共通テストの成績をもとに2段階選抜を行う。

全学院の志願者計が募集人員計の4倍を超えた場合、本学が指定する共通テストの6教科8科目の成績（得点合計）により第1段階選抜を行うことがある。

なお、共通テストの成績については、第1段階選抜のみに使用する。

##### （3）第2段階選抜

第1段階選抜に合格した者に対して、個別学力検査を実施する。

###### ①個別学力検査の実施教科・科目

科目	科目内容	選択方法
数学	「数学Ⅰ」、 「数学A（図形の性質、場合の数と確率）」、 「数学Ⅱ」、 「数学B（数列）」、 「数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）」、 「数学Ⅲ」を、その総合問題や応用問題を含めて、『数学』として出題する。	必須
物理	「物理基礎」、 「物理」を合わせて『物理』として出題する。	必須
化学	「化学基礎」、 「化学」を合わせて『化学』として出題する。	必須
英語	「英語コミュニケーションⅠ」、 「英語コミュニケーションⅡ」、 「英語コミュニケーションⅢ」、 「論理・表現Ⅰ」、 「論理・表現Ⅱ」、 「論理・表現Ⅲ」を合わせて『英語』として出題する。	必須



②個別学力検査の配点

科目	数 学	物 理	化 学	英 語	合 計
配 点	3 0 0	1 5 0	1 5 0	1 5 0	7 5 0

(4) 合否判定

個別学力検査の成績及び調査書の内容を総合して合格者を決定する。

志望学院は第2志望まで志望できる。第2志望を記入した場合は、第1志望で不合格となっても、第2志望で合格することがある。

個別学力検査の得点と同じ場合は、該当する学院の志望順位が高い者を上位とする。